広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2021年（令和３年）
９月１日　発行
9
No.1043
September 2021

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029−292−1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和３年７月末現在
男　15,938人
女　15,856人
総人口　31,794人
世帯数　13,422世帯

◆茨城町民憲章
1　ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1　からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1　隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1　自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1　文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００−８００−８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式ツイッター
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/

里山に育む生きものたち

No.109　スケバハゴロモ
（ハゴロモ科）

学名　*Euricania facialis*
（Walker）

写真・文　小菅　次男

スケバハゴロモとは

体長６ミリ程度のカメムシ目ハゴロモ科の小さな虫です。名の由来は透明な翅（スケバ）を持つハゴロモということです。

セミやカメムシなどと同じ口を持ち、木の汁を吸って生きています。

体の色は全体に黒褐色で、翅は後翅や翅脈の縁が暗色であること以外は透明になっています。

年一世代で、越冬は卵で行います。成虫への羽化は７月下旬から８月上旬で、出現する成虫の数は８月下旬頃に最も多くなります。成虫はよく歩きまわり、また本種は南方系の昆虫なので、北海道には生息せず、本州、四国、九州と奄美大島に見られ、国外では台湾、中国、インドに分布します。

類似のものではベッコウハゴロモやアミガサハゴロモが見られますが、これらと比べると個体数はスケバハゴロモの方が少ないようです。

ハゴロモの由来は

幼虫時代の姿にあります。孵化した幼虫は白緑色をしており、成虫と同様に頭は三角形で、翅のないセミのような姿をし、口吻は長く、体の末端に小突起があり、ここから白くて長い毛束が出ています。この幼虫の尻から出ている白い毛束は、普段閉じていますが、これが放射状に開いた時の姿が「羽衣」をまとったように見えるからです。この毛束は尻から分泌したロウ物質からできています。

幼虫はぞろぞろ歩き回ったり、時にはぴょんぴょん飛び跳ねたりします。

産卵は小枝の先

メスは、羽化の２週間後から産卵を始めます。産卵場所は細い枯れ枝の先端近くで、深い傷を作り、その中に卵を産み付けます。卵はそのまま越冬し、次の年の５月上旬から中旬にかけて孵化します。その後、新梢や枝の上部に移動し、往々にして集団を作り、吸汁して成長します。

クワの害虫

本種はクワやキイチゴ、ブドウなどの多くの植物につき、雑木林や果樹園の周辺で見られます。幼虫・成虫ともにクワの新梢から吸汁して加害し、さらに成虫が黄きょう病菌に感染して死亡すると、死体が感染源となってカイコにこの病気が蔓延し、大きな被害を与えます。現在は農村から桑畑が消え、この虫の害も話題にはならなくなりました。

子どものころカイコを飼ったことのある私達の年代の者には、桑畑のある里山の風景が懐かしく思えるのです。

ちびっ子アート　ふじ保育園

「夏のお花畑」
ほうみょう　ましろ（６歳）

「大好きな消防車」
こもり　しょうた（５歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています